

戦争を許さない女たちのJR連絡会



いのち輝く

わたしのピーストレイン

〒141 0031 東京都品川区西五反田3 2 13 JR総連内 ☎ 03 3491 7191 JR 057 4596

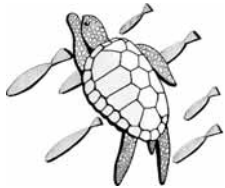
基地のない平和な生活を願う

沖縄の人々の訴えを忘れない

3月23日、沖縄・北谷町で開かれた県民大会では、スコールのような激しい雨のなか、約6,000人もの人々が怒りの声をあげました。女たちの会から参加した仲間の感想を紹介します。

テレビや雑誌に出てくる沖縄はいつでも「青い海と空」そして「白い砂浜」。こんなところでバカンスを過ごしたい!と誰でも思うはず。でも、その沖縄で「米兵によるあらゆる事件・事故に抗議する県民大会」が開催されました。県民大会は何のために、誰のために開かれるのか。沖縄の人々が求めているのは、幸せに、そして安心して暮らせることです。幸せに暮らす権利は誰でも持っているはずです。

2月に起きた米兵による女子中学生暴行事件が発端ですが、米兵の起こす事件・事故は続いています。「怒りの拳をあげたい」と思って県民大会に参加した私ですが、現地で感じたのは自分の無知による恥ずかしさでした。自民党県連と仲井眞知事の参加はありませんでしたが、だからこそ現地で本当に苦しんでいる人たちのリアルな話を聞くことができました。米兵に暴行された日本在住のオーストラリア人女性性は、6年間の闘いとその苦しみを語ってくれました。人前へ出ること家族へ及ぶであろう被害をお子さんに伝えると、その返事は「大丈夫。僕が守ってあげる」でした。沖縄へ来て、もう一人ではないと感じた彼女。「自分が出来ることを、自分のいる場所ですればいい」と大会の実行委員長は言っていました。出来ることを分かっているのも、決めるのも自分です。自分はこのからどうするのかを考えさせられた私でした。



©HIRUTA

戦争は止められる!

3月23日、豪雨のなか沖縄の「県民大会」に参加した。すべての人の発言が重かった。尋常ではなかった。以前、辺野古で闘っている女性に「沖縄を飛び立った米兵がイラクで人殺しをしているのを許せますか」と問われたのを思い出した。海を渡れば「怒り」を忘れてしまいがちな「本土」の私だけけど、「いのち」を育む女性たちによびかけます! 私たち女性がみんなで立ちあがれば、戦争を止められるんだと! Y.T

自分が出来ることを、自分のいる場所ですればいい」と大会の実行委員長は言っていました。出来ることを分かっているのも、決めるのも自分です。自分はこのからどうするのかを考えさせられた私でした。 M・M



憲法を守ろうと訴えパレード(5/3 東京)



ドシャ降りの雨の中で集会が開かれた 3/23 沖縄

歴史に嘘をつくな!

玉寄さんは講演の中で、教科書問題についてお話をされていました。「集団的に日本軍の関与はなかった」って何なんだ!

事実あったことを都合が悪いから無かったことにしておもうとする神経が信じられない。尊い命を強制的に自決という形で奪ってにおいて、「知らない」はないじゃないか。歴史に嘘ついて何をしようというんだ!

また戦争でも起こして私たちを自決に追い込もうとでもいうのか。反省もへったくれもあったもんじやない。怒りが止まらない。

平和の中でこそ人は育つと玉寄さんはおっしゃっていた。本当にそう思う。

平和で、私たちが日本国民であることに誇りを持つる国になるよう、道のりは遠いが、一つひとつできることを私なりにやっていきたい。

聚楽労組 M・S

- 08 05 01

玉寄哲永さんの講演を聴いて -

米軍基地を受け入れている日本政府に、日米地位協定見直しを求めます!

ハルモニたちとふれあった3日間 ソウル第813回「水曜デモ」に参加して

5月13日～15日、9条連主管の「5月水曜デモと平和紀行」に13名が参加。「女たちの会」からも2名が参加しました。

私の中のハルモニ

初日は臨津閣、第3トンネル、トラサン駅を見学後、挺対協近くのウリチブ（被害女性が共同で住んでいる）を訪ねました。

日本軍「慰安婦」問題。女性の名誉と尊厳を深く傷つけた日本軍。多数の苦痛を経験し、心身にわたり癒しがたい傷を負わされたハルモニたち。お会いするまでは、何か胸の中がどんよりしているのを否定できませんでした。でも、そこで3名のハルモニ（おばあさん）にお会いした途端、今までの私の心配はいっぺんに吹っ飛んでしまいました。そこに暮らすハルモニのなんと明るいことといったら。初めて訪ねた私の肩を抱き、腕を引いて中まで案内して下さいました。その後、大交流会。楽しい時間はあっという間に過ぎてしまい、最後にみんなで記念写真を撮りました。そのとき、2006年の9条フェスタで証言されたイ・ヨンスさんが「たくさん笑って終わらしましょう」と言い、明るく賑やかな笑いのなかで1日目終了しました。

いよいよ「水曜デモ」

メインの14日、ソウル・日本大使館前で行われる813回目の水曜デモに参加しました。この水曜デモは1992年1月から、どのような天候の中であっても、毎週続けられているそうですが、ただ1度だけ阪神大震災の時は中止したそうです。

正午12時のデモ開始、私たちは「パウイチョロム」（岩のように）の音楽に合わせて日本から練習していた踊りを披露。それを皮切りに、日本政府に対し戦



私たちが披露した踊りに手拍子をするハルモニたち

争犯罪への謝罪、被害女性への謝罪と補償を求めたシュプレヒコール。続いて、9条連・挺対協のあいさつと状況報告、ハルモニの紹介、憲法9条の紙芝居をハングルで読み上げました。この日は、韓国KTIXの仲間たちも駆けつけ、大変心強いなか、賑やかに行われました。



ウリチブで交流



ソウル日本大使館前の「水曜デモ」

昼食後、ナヌムの家を訪問。そこでも心暖かい歓迎を受けました。ここで見学した歴史記念館の創りには意味があって、地下から始まるのは慰安婦とされた人たちの心の闇・どん底を表しています。続く1階は日本の敗戦に伴い一点の光が見えかけましたが、親戚を捜して故郷に戻る船が爆撃されて沈没、再び悲劇が彼女たちを襲ったことを鮮明に表現したものでした。

ナヌムの家を離れるときに一人のハルモニが「あなたたちは訪ねて来てもすぐ帰ってしまう。今度来るときは何日も泊まって行って！」と言った言葉が心に残りました。

本来なら、女性として結婚をして子供を産み、孫やひ孫たちに囲まれて幸せに暮らせるはずが、日本軍の強制で「慰安婦」生活による心身の損傷により結局は子供を産むことも、幸せな結婚生活を営むこともできない。ハルモニたちは、私たちに親戚や子供の姿を重ねているようにも思えました。

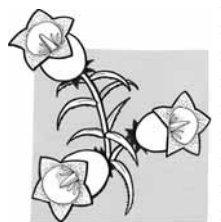
夕方、場所を挺対協へ移し、「憲法9条セミナー」を開き、交流会。盛りだくさんの2日目でした。

日本政府は一切の責任を負うべきです

最終日、安重根記念館、西大門刑務所を見学。ここでも日本軍が蛮行の数々を知ることとなりました。戦争は人間の心をも悪魔に変えてしまう。慰安所は日本軍が駐留したどの場所にも、そして日本にも存在しました。日本政府はその一切を、戦後60年以上たった今でも認めず、謝罪していません。同じ日本人として、また一人の女性として、とても心が痛みます。

今、闘っているハルモニたちの年齢は70歳から90歳以上と大変高齢です。9条が改憲されようとするなか、二度と悲惨な戦争を引き起こさないためにも、この方たちの目の黒いうちに日本政府は過去の歴史の過ちを認め謝罪し、補償ではなく弁償をすべきだと思います。また、そのためにも自分ができうる運動を自他ともに広げていこうと思いました。

今も「水曜デモ」で闘いは続いています。が、「慰安婦」として辛い思いをされた分、ハルモニたちが心穏やかに、また、長生きされることを、心より願っています。 M・S



7名は無実だ！ 控訴審勝利！

再びハンドルを持たせる 5.17 埼玉集会

JR東労組大宮地本青年部のヨサコイで、集会は始まりました。司会は埼玉9条連の吉村さんです。実行委員長の布野さんや支援する会の飯沼さんから挨拶がありました。講演は「何故、えん罪はなくなるのか」という映像を交えた安田弁護士のお話でした。また、裁判員制度の導入は国民に対する精神的苦痛が大きいという話に、同感しました。裁判員選ばれた国民が、どれほどの精神的苦痛を背負って一生を終えなければならないかを想像し、裁判員制度についても考えさせられました。

現在、「えん罪」で闘っている美世志会の大潤さんと小黒さんからは、控訴審勝利に向けての決意表明がありました。控訴審勝利のためには、大きな支援が必要だという大潤さんと、再び京浜東北線の八

ンドルを持ちたいという小黒さん。二人の言葉から、更なる支援の力を貸して欲しいとの訴えが伝わってきました。

次に、会場から4人の発言を受け、集会のアピールが読み上げられ、閉会の挨拶です。支援する会の賛同人でもある埼玉9条連の秋山さんから、「諦めずに美世志会の7名に、人間としての尊厳を取り戻すために、共にがんばりましょう！」という力強い挨拶があり、集会は終わりました。 A・Y



この秋に始まる浦和電車区事件控訴審勝利に向けて、5月に各地で集会が開かれました。その一部を紹介いたします。

えん罪を許さない、すべての闘いに連帯を

かたろう・つなごう・えん罪シンポジウム

5月18日、九州地協主催の「かたろう、つなごう、えん罪シンポジウム」に参加しました。

まず「無罪で死刑執行」された福岡事件の報告と、死刑囚・西さんの40年ぶりの再審を実現するための



取り組みへの要請がありました。

次に、えん罪・引野口事件で無罪になった片岸みつ子さんから獄中での体験が報告され、「警察によって犯人にされたあげられた」「夫を失い、子供も職をなくしたが、私は今後も堂々と生きていきたい」と語られました。

そして美世志会の大潤さん、JR東海労の加藤誠二さんの懲戒解雇事件の報告があり、最後に内田博文九州大学教授から「特に自白調書に基づいて99.9%の有罪判決が出されるので、自白調書の危険性を認識し、現在の制度の見直しが必要」と講演されました。

私たちは、それぞれの事件に取り組んでいる方々の声に耳をかたむけ、信じて支援していかなければならないと思いました。このような悲劇をゆるさないために。二度とえん罪をゆるさないために。

星砂の会 M・O



片岸みつ子さんを囲んで

二〇〇四年三月二十四日夕刻、福岡県北九州市八幡西区引野口で火災が発生し、焼け跡から男性の死体が発見された。警察は実妹の片岸みつ子さんを別件(窃盗と威力業務妨害)で逮捕し、二カ月間の拘留を経て殺人罪と放火罪で再逮捕。検察が起訴した。自白の強要に屈せず、無実を主張して闘った片岸みつ子さんは、三年九か月余の拘束の後、第一審で無罪判決をかちとった。現在、片岸さんは国家賠償請求で争うことも検討している。

引野口事件とは

一九四七年五月二〇日、福岡市で軍服の取引をしていた中国人と日本人の二人が殺害された事件。警察はヤミ取引に絡む強盗殺人事件と断定し七名を逮捕。西武雄さんが首謀者、石井さんは実行犯(いずれも元軍人)として、二人とも死刑判決を受けた。しかし、捜査と裁判に対するえん罪の疑いが指摘されている。西さんは既に処刑されており、石井さんは無期懲役に減軽された。五回の再審請求はすべて棄却されたが、再審での検証が必要だと、現在、再審開始を求める署名運動が取り組まれている。

福岡事件とは

行くへ
世の中アピラ配りでホレ
うねりっこ起きでいるんだト
正義だつきや勝たねばまいネ
黙って待ってねデ
ピラどマイクはシヨツテ
みんなサ しゃべねばまいネ
大潤慶逸

京都・舞鶴平和研修

憎しみの視点を脱して 未来へ視野を広げて学びたい

3月30～31日、JR貨物労組関西地本の京都・舞鶴平和研修に、「青空の会」が多数参加しました。京都の「立命館大学国際平和ミュージアム」をガイドの方の説明を聞きながら見学し、舞鶴では「引揚記念館」・「浮島丸殉職者追悼の碑」・「海上自衛隊舞鶴基地棧橋」などを見学しました。

参加した家族の方から感想が寄せられましたので、ご紹介します。

この度は、京都・舞鶴市での平和研修に参加させていただきました。大学生になってから原爆などの戦争に関する知識に触れる機会も増えたので、この研修でも広島とは違った視点で平和のあり方を実感できるのではないかと思います。

実際に参加してみると、広島と京都では戦争に対する思いが異なっていることに気づきました。広島の原爆資料館などでは、世界平和は訴えているものの、原爆という悲惨な出来事にとらわれており、“～



された”というように憎しみを投げかけている内容の展示が多数を占めているように思います。しかし京都で訪れた国際平和ミュージアムは、日本が侵した過ちや世界の現状も踏まえて公開し、未来への指針も示している点でとても理解しやすかったです。

この研修を通して、広島のことだけでなくアジア・世界へともっと視野を広くし、過去の出来事やこれからのことを学び、考えていきたいと思います。

青空の会 A・T (学生)

コーラスで広がる仲間・地域・平和

PTA活動の中で自然に出来た仲間と、週一回コーラスをしています。40代、50代の8人ですが、子世代に当たる高校生の仲間も増えそうなこのごろです。もともとは、小学校のPTA活動の中で、自由に疑問や意見を声に出すことができない自分たちを変えていきたいと願ったことがコーラスの出発点でした。今では1000人入るホールで、マイクなしでも8人で3部合唱ができるまでに成長(?)しました。

時々、町内の老人会や地域の団体のミニコンサートなどに声がかかります。

昨年の9条連空知地区平和集会では、沖縄にちなんだ“さとうきび畑”などを聴いていただくことができ、メンバーから社会勉強になったと喜びの声が聞かれました。

子育ても一段落しました。これから体の動くうち



は、未来の地域のためになることが、すこしでも歌を通してできれば、なお幸せと思っています。

ななかまどの会 J・T

事故を忘れない

JR西日本 福知山線事故から三年

4月25日、全国の乗務員の仲間と福知山線脱線事故現場を慰霊に訪れました。尼崎駅の改札を出たとき、言いようのない緊張と重苦しさに包まれました。発生時刻には、遠くからかすかに聞こえる汽笛を聞き、黙祷をささげました。お寺での供養の後、事故現場へ。多くの報道陣で物々しい雰囲気の中、現場で焼香と献花を行いました。

一瞬にして奪われた107名の方々の命の重さ。癒えることのない遺族の方の悲しみ。今なお体や心に深い傷を負った方々の苦しみにさまざまな思いが頭の中に来し、ただただ「私は決して忘れません」と思うばかりでした。これから「安全」を考えると、現場で感じた思いをつねに基盤としていこうと思います。

R・Y



女たちの会 全国集会に集まろう

と き：2008年7月26日(土) 13時30分より

と ころ：ホテルフロラシオン青山 (東京都港区青山4 17 58)